

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

不破 津左衛門
名古屋山三

昔語稻妻表紙

六

遠13
1884
6

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

13
1884
6

註日 話 鴉妻表紙 卷之五上冊

本清

江戸 山東京傳編

五 孤 鴉 の 禍 福

當時むむ右衛門又平考一回ふの金の出所いふと。ぶるしふひけ依一町ふ
一人の男汗もあせり小息もはれあふと。飛ぶごとく小をせまわり室内も
こゝろ内ふのこ。たしゆふ爰ふおちたるがとひひく。あつととえまはし
あむ右衛門が手小持る財布とるはけ。その我共ふたる金なる
は方へ之とぐりといひり。財布小手成のふと。あむ右衛門のりえそ
ハ長谷部雲六うらむとく。は男仰天一しりく。るは佐良三
八郎あて。かしら若殿桂之助もあひけ。はまもく。驚馬財布も
あて。遊いごとと。あむ右衛門猿臂と伸。るをくびはうそひき

古今圖書集成

夜百蟹の巻物と盗逃去たるものぞ見えぬ。我その夜若殿
御放埒の根とたんと。藤波と殺し。さふむぬありて。一旦館と
たりのさし。同夜のまじり。某もあん疑か。汝のひ合せ
の巻物を盗し。共盗賊の汚名と。かうさぬ。そのちり
巻物と賣人といふ者あり。それと。汚名をさす。かやこるひ
けん。價百兩といふ大金なり。わがど。あつ。海小娘。楓は。いと
同て深く悲し。ふらふ。事を又せ。物芝居。小賣。て百兩の金をその
の巻物を買ひ。諸人。小面。以。し。丹波の国の蛇娘と。毒小耻
どの。は。妻。の。う。と。あ。う。ぬ。う。れ。も。あ。せ。し。業。小。あ。う。ど。唯
今。う。ど。や。金。せ。し。八。天。の。う。へ。我。宿。恨。を。も。と。べ。死。時。の。う。れ。所
あ。し。な。ま。へ。生。皮。を。剥。臊。子。小。ま。ま。じ。も。鮑。を。う。も。と。の。ひ。つ。の。買。子。の
上。小。白。異。の。夫。を。と。ら。う。つ。け。し。そ。の。う。れ。け。且。六。の。一。言。ば。返。答
と。べ。死。詞。あり。只。あ。う。い。や。う。こ。う。ち。り。び。け。り。時。小。又。平。が。妻。小。枝。と。死
む。し。う。り。の。雲。六。が。顔。を。つ。出。く。と。す。り。つ。り。を。居。り。の。だ。大。お。お。死。先
年。杉。坂。あ。て。妻。が。懐。中。の。金。二十。兩。を。奪。取。逃。去。たる。盗。人。の。と。ま。り。ち
此。者。あ。て。た。し。う。ふ。る。お。お。え。の。う。と。の。心。を。又。平。と。と。て。扱。い。あ。う。あ。う。け。る。う
思。人。と。仇。人。と。あ。う。も。同。月。同。日。小。を。と。と。出。会。せ。し。八。正。是。天。の。と。あ。び。さ
あ。ふ。処。あ。て。善。悪。つ。ひ。小。報。あ。う。ま。と。示。し。あ。入。所。あ。う。ん。い。小。雲。六。と。や。ん
よ。く。さ。け。と。て。小。枝。金。と。り。が。と。の。ひ。け。り。首。縊。て。死。ん。と。せ。以。三。八
郎。が。情。を。金。子。と。合。力。され。危。と。一。命。を。た。ま。う。と。た。る。の。の。始。終。を。
ほ。が。さ。小。切。う。り。け。ね。ば。雲。六。頭。を。た。し。と。さ。う。居。る。が。や。う。と。一。刀。以。後。て

名古屋巻之五七

てさし上げぬが飯茶のゆゑの必^{ひつ}定^{ぢやう}なるれども本^{ほん}金^{きん}小^{せう}利^り金^{きん}をくらへてわれ
 こゝと百^{ひゃく}兩^{りやう}をくらへての金^{かね}なるれが。わろくさうのひびやく。今^{いま}先^{せん}非^ひと悔^{くわい}ると
 のどもかひかりといひて。そと泣^{なみ}してそせけと妹^{いまい}これと実^{まこと}や。し
 まつてバ^バ妻^{さい}が牙^がを賣^うて金^{かね}以^もその人^{ひと}。その巻^{まき}物^{もの}と受けりて飯^{はん}茶^{ちや}
 を願^{ねが}ふへといふぞ。其^{その}心^{こころ}小^{せう}計^{けい}なりと攻^{こう}び。うぬくつらと情^{なさけ}なるも。
 妹^{いまい}を当^{あた}所^{ところ}の伏^{ふし}柴^{しば}の里^{さと}ふあてゆき。百^{ひゃく}兩^{りやう}小^{せう}牙^がを賣^うて。今^{いま}日^ひもその
 牙^がの代^{しろ}をうけりて。天^{てん}へものおるらうしそ。かつ路^{みち}の傍^{かたはら}小^{せう}羽^うの雁^{げん}首^{びら}
 をあけて。落^{おち}居^からう。飛^とけのひんちやく。又^{また}あじとも。拔^ぬ足^{あし}して拾^{ひろ}取^とて
 又^{また}ゆふ筈^{はず}の疵^{きず}繻^すのあともなり。切^きへら。ぢふびる雁^{げん}金^{きん}の。行^ゆ倒^{たふ}くと
 推^{おし}量^{はかり}し。何^{なに}あすれ。福^{ふく}のつらと。時^{とき}晚^{まん}の寢^ね渥^{あつ}の看^まとし。ひきど飢^うたる
 瘦^{やせ}腹^{はら}と肥^こさんめのと公^{こう}のうちふ攻^{こう}び。そや榮^{えい}耀^{よう}心^{こころ}いぞ。提^たておくも

ワづかへしと金^{かね}財^{さい}布^ふの紐^{ひも}のあゆを雁^{げん}の足^{あし}ふひつけ肩^{かた}の尖^{とが}みりうと
 げ。懐^{ふく}手^てして飯^{はん}茶^{ちや}し。何^{なに}とら志^しけん。かの鷹^{たか}途^{とち}中^{ちゆう}少^{せう}て獲^と生^{せい}ぶ。つたな
 財^{さい}布^ふも。小^{せう}虚^こ空^{くう}を存^{ぞん}して飛^とまけるあひど。翼^{つばさ}なれ牙^がを悲^{かな}しめて。
 あととあひて。は処^{あところ}まて追^お来^きりし。落^{おち}べ兒^に所^{ところ}もあづれ。此^{こゝ}みあちて
 君^{きみ}と始^{はじめ}めまり。かのく方^{かた}ふ出^で会^あひ。某^{それが}旧^{ふる}悪^{あく}のあつらう。ハ正^{ただしく}是^{この}兄^{あに}の为^{ため}ふ
 牙^がを賣^うふなどの。実^{まこと}ある妹^{いまい}の牙^がの代^{しろ}をむらりし。某^{それが}非^ひ道^{みち}をふくも。
 天^{てん}罰^{ばつ}を多^{おほ}く。あふ疑^{うたが}なり。今^{いま}ふいそして。やうくと。ひあて。ゆとて。財^{さい}布^ふ
 をくらへて。此^{こゝ}百^{ひゃく}兩^{りやう}の金^{かね}ハ先^{せん}年^{ねん}奪^うし。二十^{にじゅう}兩^{りやう}小^{せう}利^り金^{きん}をくらへて。又^{また}平^{へい}このあ
 ちをのひど。合^あ力^{りき}うけし。三^{さん}八^{はち}郎^{らう}どのへ。は。終^{しま}返^{かへ}し。五^ごひて。清^{きよ}息^{いき}女^{にょ}楓^{ふう}のあ
 ちとあづち返^{かへ}し。玉^{たま}のこり。さもあづ。我^{われ}牙^がの罪^{つみ}の一分^{いちぶん}を減^{げん}じ。いそ
 来^き世^せとたをめる。便^{べん}も相^あちあづべし。いそれを同^{どう}ね。ば。そことふ。ゆりひ

しぐ。比度石山寺の門前まで諸人小入る蛇娘ハ楓どの小疑りし。
 閉をけては清西人といひて掌と合して舞を滝のごとく舞は
 けし。又平の財布をさしてあむ右衛門が前におれ雲六慚邪懣
 罪しと実心ふひる。ついでしうへ不便ふも存とねばめれが望のごとく
 此金めて息女をあがねひゆしといふ。あむ右衛門頭を右左ふあり
 うごじ。ついで八重垣とやんさばうと實の傍者をうれ川竹のやが
 じふとぐめ長く辛苦とうけまけん。あむのびめがれりやうと娘
 楓ハぶく竟悟のうへめて親の為ふとぐかめとうとうなれん
 とぞり。比金を買して八重垣とるこりじ。はふとぞしといひて
 うけがはさむ。雲六苦げ息をつき。あむの金めては息女の名は
 あがねひあむ。ついで妹が實公のひもあむ。珠更その金

おん才の膝のあむふ落たるよし。畢竟天より忠臣孝子以賞ト
 むひて与へふ。不疑也。若海川やもあむ。ついで妹が志ハ水の泡と
 なるを歎し。ひとふん同をけむ。若さもあむ。其死しとも。
 らう。眼をふさねやとまどと涙をながしてねむひけ。桂之助死
 終と同悪もはる。善もつた。彼がねむ。末期の望やねむ。
 とぞけはふとぞし。おれあふせふ。あむ右衛門。やうくらねとうけむ
 け。雲六いうと。げ不打笑。今ハ此毒小のぞむ。死出の旅路は
 のぞむ。相公の御前をけむ。罪ハ。あむ免し。あむれし。腹十文
 字小かさやぶ。咽吭とめ。斬て。うらぐ。あむ伏て死。たむ。時ハ
 あむ右衛門。あむの鳥とぞむ。あむ。此鳥鷹小似たり。とつと
 うく。あむ漢名蒼鷺とつと鳥ちり。と高飛鷹小似て蒼白之

藤波
成仏
得脱を

楓孝道
あつきのうり夢中
名画乃奇特と得て
妖蛇乃難義と
まぬる



以て

晋門山蟹満寺と号を或まゝ紙幡寺ともいふに元享叙書卷八
 子アスたり。息女の事よくいふ小似る。ふふのねの陰徳陽報の
 理を示しるねの名画の奇特ありて孝女と云ふ共小是仏の慈
 悲衆生濟度の方便之あれ壁ふかしたる我拙筆の絵を又又地
 水火風の四ツの緒の。うねてえりやれ琵琶法師も忠孝全之竹杖
 みて傾悩の犬と歩畜生道とすぬめわけて天堂小生ろくめたり。子
 息文弥ぶの姿絵とも又又うし。緑青の髪とち胡粉の肌无常
 の風子塗笠も骨の残る手弱女が肩小ぬけ一枝の紫雲たまびく
 藤の花と味藤波が成仏の女なり。積悪の角と折鬼はと心
 をひるびて墨の衣小鈕チさぬは是乃長谷部雲六が邪念を滅せ
 一歩りてや喜怒哀楽小いりどろと。もろくののちとる。善と

了らして悪とあり。正とあり邪とあり。恩とあり仇とあるも三世因果の報
 こゝろ互の恨もつとろの。矢猛心とまげて唯彼等が菩提ととむる
 小志に。某に不どの夢小。波浪女とあり。敵三八郎の親子のいじ
 こ忠孝と感ぶね。今ハ恨も尽きて安養浄土小生とぬとひ
 て。了らして光明をえりて去とスるね成仏得脱とてかひは。こ
 り折しも桂之助小枝於竜と共小。ねををさゆして一回と立出
 我く三人もあらず。夢をえりてこのひて一回小とびけて。時小振
 父の前小手とつと。妾こと姿とやへて波浪の支弥等の菩提と
 とひくくゆへ。剃髪とて尼とほむ玉のどじとのふ。まむ右衛門といふ。
 のかく汝剃髪无用なり。我今もと剃髪して。佐渡嶋坊と名告。
 我異名と汝小あづり。若殿を立小出。まあづせ。後ハ專修の念

棒とろろと走り出の坂原を散ぐ追ちじ。ふれり志賀の山越
して立の死あれし人のまらざり同道とて供ほつらんそそほひふ
四人あつれそいそ死あふぬ。そそ雲六が屍ハ。又平その夜ち死山ふれ
ゆとて焔とあり。あといれんぞあふそつひけりそぞ

十七 雪溪の非熊

爰又梅津の嘉門ハ母と共小虫を避て和州河州のまゝ金剛山水越
峠の谷陰ふづせと庵をいよる。当山ハ柔草おやく。殊小金山はて
金剛砂と出よと由急。くねらとそりて田ぐの費小以へぐく新をこそ
水とろ。わけく色老母小孝行を尽し。いぬあハ書籍を反しと卧竜
先生の跡を追。禅味を甘うて大幢国師の道をまゝひ。名利小屈せぬ
志。ふれにたふらふぞ。そそ一日老母山寺小まらる。そそ比しも。冬

時節りねバ。飯路子のそそ雪とあし。そそ満地玉とあし。傍々
ごとく。通ひりねらる道とぞも。深く雪ふがとたねバ。おのく道ふ
迷ひ殊更峠越の吹雪。肌小まそそ寒ければ。あそとあそそ杖とぞあ。ま
一たそそ居ら折しも。獵師小追出されら。穴熊也。雪を踏まそそ
馳来り。わどく老母小飛やらん。そそ一人の若者木陰もと走ら
出立る。がくそそ熊の肩を一刀さうつ。けたは。熊ハ怒て狂ひ
けらつ。ひ不足をそそわ。びして谷底小さし。すそそあ。ちのめ。若
者ハ腰をわら。そそ老母小むい。年老あふおん。あそそ雪中の歩行。そ
ふまのびがじ。びくあもあれ。おん住家。そそ負行。まあ。せん。このあそ
老母ら。し。げふ。びく。の死。あふ。まら。され。ども。今の危難。を。ま。ひ。ま。つ
の。り。ま。ど。情。保。そ。お。志。謝。そ。そ。詞。は。そ。い。は。ま。ら。う。あ。の。死。詞。と。ま

梅津嘉門
河内國金剛
山小世と避て

清分と

生涯

孫



梅津嘉門



梅津嘉門

